

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 8

首都高名所案内
**浦安
 ディズニータウンと
 青べか旧市街**
 コラムニスト
泉 麻人

車窓越しに眺める遊園地の景色というのは、いくつになっても胸ときめくものだ。都心から湾岸線に入って、新木場の先に葛西臨海公園の観覧車、続いてディズニーランドのホテルやシンデレラ城……が見えてくると心がウキウキする。

東京ディズニーランドがオープンしたのは83年の春だった。まだ当時20代の編集者だった僕は仲間と一緒にクル

マで何度か繰り出した。最寄りの出入口は「葛西」になるが、渋滞を避けるために一つ先の「浦安」で降りるルートがハヤっていたのを思い出す。確か「鉄鋼団地」と呼ばれる一画を迂回する進路だった。

その鉄鋼団地、鉄鋼会社に従事する人たちの集合住宅……と、ぼんやりイメージしていたのだが、先日じっくり探訪してみたら、これは人の住む団地

ではなく、鉄鋼材の倉庫街なのだ。メルヘンなディズニーランドの並びに、こんなお硬いスポットが存在しているとは面白い。

鉄鋼団地を東へ行くと、また景色はガラリと変貌する。パームツリーの並木道、白壁の高層マンションが建ち並び、カリフォルニアのリゾートタウンにトリップしたような街並が広がっている。沿道のバス停も「海風の街」に

この郷土博物館の脇を流れる境川がかつて小舟が往き来した重要な交通路。浦安駅の方へ上っていくと、堀江の川端には宇田川家、大塚家などの歴史深い民家が保存されている。門前のフラワー通りという狭い道が、往年のメインストリートだったらしい。

と、浦安駅南方の堀江の界限には、かろうじて漁師町の面影が残っている。

「夢海の街」……これは街区に付けられた愛称のようだが、なんだか物語のなかの架空の街を思わせる。明海大学、了徳寺大学などの新しい学校、大きなスーパー、家電ショップ、結婚式場、海際にはメモリアルパークまであって、つまりこのエリアだけで一生過ごせる……というコンセプトなのだ。

浦安を舞台にした小説に山本周五郎の『青べか物語』があるけれど、この作品は62年（昭和37年）に森繁久弥主演で映画化（監督・川島雄三）されている。東京オリンピック直前の浦安はまだ漁師町の景観が保たれ、町を外れると一面の湿田で、森繁がいまの舞浜あたりの沖に小舟浮かべて昼寝しているシーンがある。ほんの半世紀前の牧歌的な浦安景色が記録された貴重な映画。マニアックなCS局などで流れる折に、ぜひ御一見を。

ところで、この辺の浦安はディズニーランドが出来上がった80年代以降に開発された一帯。僕が子供の頃に眺めていた地図の浦安は、細長い三角州のような本場に小さな町だった。町名でいうと、東西線の駅のある当代島、北栄から猫実、堀江、富士見の町域までが埋立て以前の昔の浦安である。市役所横の郷土博物館に、ノリやシジミ漁で栄えた頃の町のオープンセットが展示されている。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京考現学図鑑』（編著 学研パブリッシング）がある。

2 コラム RAMPWAY
 泉 麻人

特集 **距離別料金**

5 **ダイナミズムの創造**
 首都高速道路株式会社 代表取締役会長兼社長
橋本圭一郎

財団法人 日本総合研究所理事長
 株式会社三井物産戦略研究所会長
 国土交通省「高速道路のあり方検討有識者委員会」座長
寺島実郎

10 **料金制度の将来像**
 専修大学 商学部 教授
太田和博

12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子

14 CHALLENGE ETCシステムを守る

15 データ物語
 消えたハードル!?

16 **首都高HEADLINE**

18 business essay
 登り坂? それとも下り坂?
 明治大学大学院 先端数理科学研究科 特任教授
杉原厚吉

20 つくる人まもる人
 首都高速道路株式会社
鶴田和久

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
 contents produced by
 Metropolitan Expressway Company Limited